

私たちが生きる社会  
私たちが抱く想い  
生・老・病・死の  
「いま」を知る 「いま」を考える  
— ところに寄り添うために —

講座スケジュール

第1講

5/8 水

18:30 ~ 20:30

開講記念シンポジウム

現代社会と臨床仏教

**内容** 仏教が誕生して2500年。釈尊が説かれた生・老・病・死という現実のはざまで揺れ動く人びとのところ…人びとは「いま」をどう捉え、「いま」に何を求めているのでしょうか。そのところに寄り添う仏教者の事例を踏まえながら、臨床仏教が現代社会に果たす役割を考えます。

**パネリスト** 千石真理 (京都大学こころの未来研究センター研究員)  
藤尾聡允 (自死・自殺に向き合う僧侶の会副代表)  
ジョナサン・ワッツ (臨床仏教研究所研究員)

**コメンテーター** 養輪顕量 (東京大学大学院教授)

**コーディネーター** 神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員)

第2講

5/15 水

18:30 ~ 20:00

さまよう若者

— 不登校・ひきこもり問題を視る —

**内容** 未来に希望を持ってない若者たち。彼らは社会に対して何を感じ、自分を閉ざしてしまうのでしょうか。社会と異なる価値概念を仏教者はどのように提示していくのかを考えます。

**講師** 和田重良 (NPO法人くだけかけ会代表)

第3講

5/22 水

18:30 ~ 20:00

共に生きる  
社会を目指して

— 路上生活者支縁に学ぶ —

**内容** セーフティーネットなき排除型社会となった現代。路上生活者をはじめとした生活困窮者に寄り添う活動を続けるなかで、現世をこえたつながりを発見する仏教者たちの足跡をたどります。

**講師** 吉水岳彦 (社会慈業委員会ひとさじの会)

第4講

5/29 水

18:30 ~ 20:00

ターミナルケア

— 医療の現場に関わる仏教者 —

**内容** 「こころのケア・ボランティア」として、ホスピスや病院で死を間近にした患者さまに寄り添う仏教者たち。患者さまが教えてくれる「いのちのメッセージ」を受け止めてみましょう。

**講師** 大河内大博 (いのち臨床仏教者の会副代表)

第5講

6/5 水

18:30 ~ 20:00

仏教と災害支援

— 足湯と傾聴から見たもの —

**内容** 2007年、能登半島地震以降、被災地で足湯傾聴ボランティアを継続してきた仏教者と医療者ほかによる異業種協働チーム。災害支援を行っていくうえで私たちに求められるあり方とは。

**講師** 辻 雅榮 (高野山足湯隊)

第6講

6/12 水

18:30 ~ 20:00

つながる宗教者

— ネットワーキング型支援の可能性 —

**内容** 東日本大震災を機に発足した「宗援連」。被災者のニーズに柔軟に対応すべく、互いの経験を活かしながら、仏教にとどまらない、宗派・宗教の横断による震災支援の可能性を考えます。

**講師** 島菌 進 (宗教者災害支援連絡会代表)

第7講

6/19 水

18:30 ~ 20:00

「無縁社会」から  
「有縁社会」へ

— 過疎化・自死・孤独死 —

**内容** 過疎化・自死・孤独死—高度経済成長期の影で成長していた無縁社会が抱える闇。そのなか、地域でサロンを開設した仏教者のもとに、人びとがつどい、縁が生まれ始めています。

**講師** 袴田俊英 (心といのちを考える会会長)

第8講

6/26 水

18:30 ~ 20:00

なぜ犯罪は  
起こるのか？

— 教誨師からみたところと社会 —

**内容** 刑務所や少年院の被収容者が気付かぬままに育んでしまったところの闇—それを一緒に見つけながら「今の自分」と向き合う教誨師。罪を犯す動機とは？ 犯罪を生み出すところと今をみつめます。

**講師** 深井三洋子 (立川拘置所教誨師)

第9講

7/3 水

18:30 ~ 20:00

「破壊カルト」に  
走る人びと

— 宗教が苦となる現場 —

**内容** オウム事件が終焉を迎えようとする中、新たなカルト集団が私たちの生活を脅かしています。その現状と手口を解明し、自分や大切な人を守る方法や仏教者としての使命(救済)を考えます。

**講師** 楠山泰道 (日本脱カルト協会(JSCPR)理事)

第10講

7/10 水

18:30 ~ 20:00

現代における  
臨床仏教師の役割

**内容** 精神的空洞化社会と言われる現代。なぜ臨床仏教師が必要とされるのでしょうか。これまでの講座を総括しながら、臨床仏教の意味と臨床仏教師に求められている役割について考えます。

**講師** 神 仁 (臨床仏教研究所上席研究員)